

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：尾上 伸一 所属：横浜市立下永谷小学校

課題名：校庭を自然体験博物館として活用する教育実践の普及・啓発

1. 課題の主旨

学区のほぼ全域が住宅街である横浜市内の小学校で、子どもたちが豊かな自然体験を積み重ねることができる場を校庭内に造り出してきた。その活動は10年間にわたり、校庭には自然観察の場、飼育・栽培の場、環境保全実践の場が生み出されてきた。下永谷小学校では、そのような自然体験や環境学習が可能な場としての校庭をそこでの活動とあわせて「校庭自然体験博物館」という名称を付けて呼んでいる。

この「校庭自然体験博物館」での全校の実践を地域活動や地域組織とも関連させて、全校で共通に取り組む学校教育の柱としていくために、「校庭自然体験博物館を活用した環境教育カリキュラム」を作成し、授業実践と結びつけたカリキュラムを仕上げ、普及啓発に努めることにより、都市部の学校で自然体験活動が十分にでき、地域と連携し合う中で、子どもたちが学ぶ力をつける基礎となることを実証したい。

2. 活動状況

- 横浜市環境教育の指針の環境教育の内容をもとに、本校の環境教育の内容を検討し、環境教育全体計画を作成した。＜18年度の全体計画：別紙資料参照＞
- 学年指導計画をもとに、本校の環境教育の内容の視点から関連している各教科等や単元を洗い出し、活動を見通した一覧表を作成した。各教科等で環境教育と関連して指導できる単元や学習内容を検討し、授業実践に取り組んだ。
- 貴重な自然環境である校庭の「校庭自然体験博物館」を利用し、子どもたちは身近な自然や人とふれあう体験的な学習を大切に「楽しい」「わかる」授業づくりを続け、教師と子どもが共に学びをつくってきた。子どもと教師の「手づくりの環境づくり」が、地域やPTA活動、さらには木の実クラブや下永谷小学校卒業生クラブなどのネットワークに広がり、「人や自然にやさしい」学校づくりに発展している。

校庭自然体験博物館を活用した各学年の学習活動を簡単に紹介すると、5、6組では、色々な野菜や花を育て、宿泊体験学習では、下小の畑で収穫したジャガイモでカレー作りをして食べた。1年では、学校探検などを通して、校庭の季節ごとの自然や生き物と、五感を通して十分に触れ合う活動を展開している。2年では、学校探検の時にそよ風の散歩道で見つけたカントウタンポポの綿毛を育て、生活科ロードにタンポポ畑ができた。プール開き前にヤゴを救出して教室で飼育しトンボにかえた。3年では、地域の方からお花の育て方を教わりながら、虫が集まり花いっぱいになる

学習に取り組んでいる。4年では、体験学習で、下小の畑で育てたジャガイモを野外炊飯でカレーに入れて食べたり、年間を通して、校庭の木や植物を観察したりしている。5年では、6年生から受け継いだ下永谷米を種もみから大事に育て米作りに取り組み、田んぼを通して、生き物の命がつながっていることを学んでいる。6年では、ホタルの幼虫をふれあい水辺に放した。下永谷小学校卒業生クラブの先輩に教えてもらいながら港南区の平家ボタルを守るため、水辺の保全に取り組んでいる。



- 実践した内容を学校・学年便り、学校ホームページで知らせたり、授業公開で紹介したりするなど、環境行動への意識を全校や地域に発信し、普及啓発に努めた。

3. 結果

- 年間を通して、この「校庭自然体験博物館」を生かした体験的な学習が、各教科等の学習内容を豊かにしている。環境教育全体計画を作成し、学年ごとの環境教育の内容を一覧にすることで、各学年の子どもの姿や小学校の発達段階が見られ、環境教育の学習内容がより明確になった。
- 手づくりの学習環境や地域の人材を活用した体験的な学習を大切にする授業を実践することで、子どもの興味関心が高まり、主体的な活動が見られた。学習活動を積み重ねていくことで、学年間の交流が自然とでき、相手意識をもつことにより、自分たちの目的がはっきりしたり、意欲をもった活動となったりしている。さらに、「来年はこういう活動ができるんだ」と子どもが見通しをもつこともできた。
- 木の実クラブの方をはじめ地域の方と連携した活動が増えてきたことにより、学習が深まり、広がっていった。また身近な地域の方とのふれあいから、子どもたちが地域への愛着をもつようになった。
- 環境デーでのことや授業実践した内容を学校・学年便り、学校ホームページで知らせたり、授業公開で紹介したりするなど、環境への意識を全校や地域に発信し、広めることができた。

4. 今後の課題と発展

- 環境教育を基盤とした教育課程の編成と学習環境の整備を進めた教育活動の実践の充実をさらに、図っていく。「校庭自然体験博物館」など手づくりの学習環境や地域を活用した体験的な学習が活発に展開されることで、よりよい環境づくりを実践する子を育てることができると考える。環境教育の内容一覧表をもとに授業の実践を検証していき、人や自然と豊かにかかわり主体的に学び合う子の育成をめざしていきたい。
- 木の実クラブ人材マップの活用、校庭しぜん体験博物館の活用マップ、植物暦を活用し、学校と地域や民間団体との相互の協力体制を整え、実践に生かしていく。
- 環境教育の成果としての省資源やリサイクルを積極的に実践していく態度や、豊かに人とかわりあひながら健康的に生活していこうとする子どもたちの意欲を高めるようにしていく。学校・家庭・地域が連携し、環境を大切にする心をはぐくみ、学校で学んだことを日常生活で実践することを大切にしていく。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など